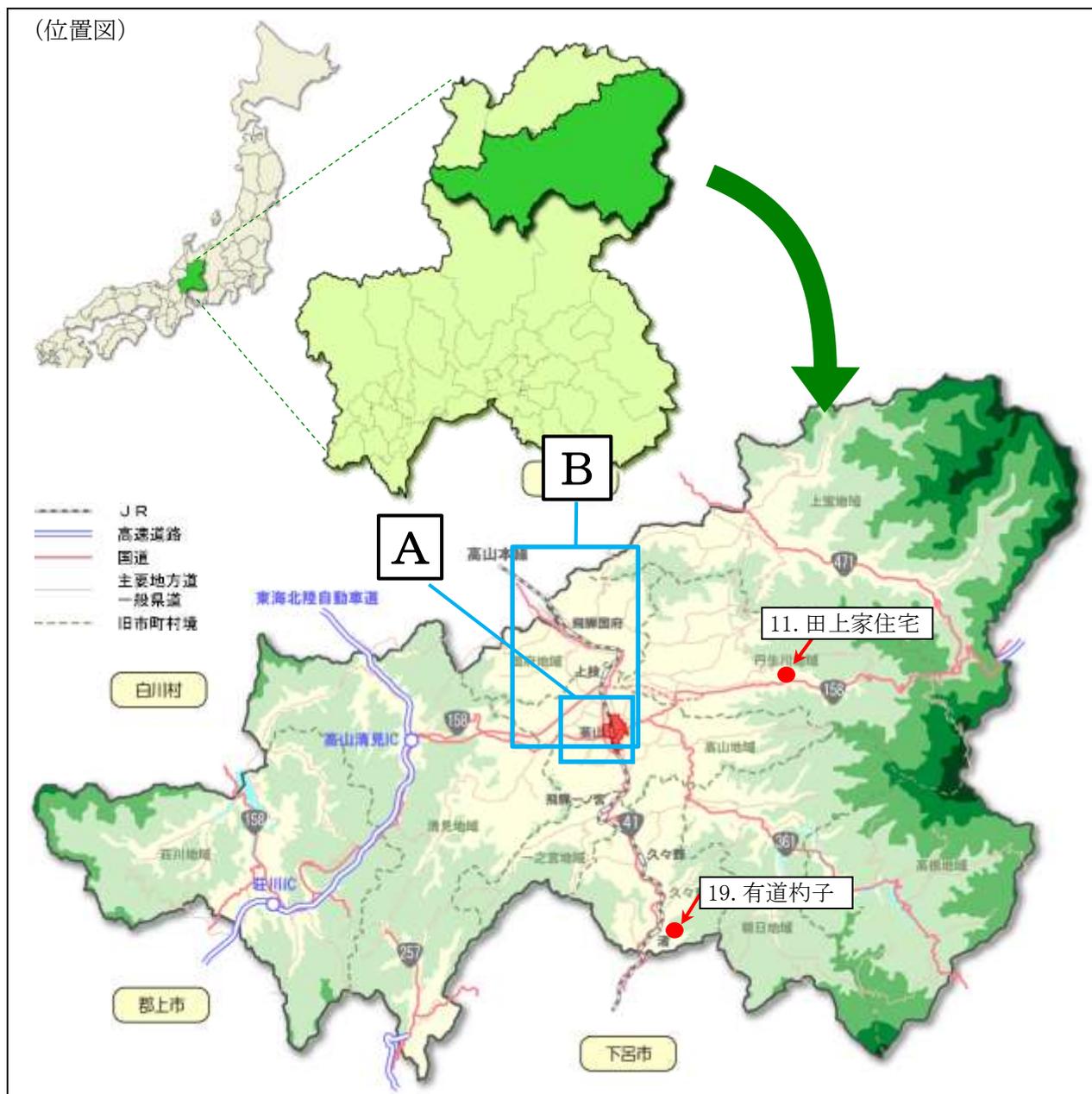


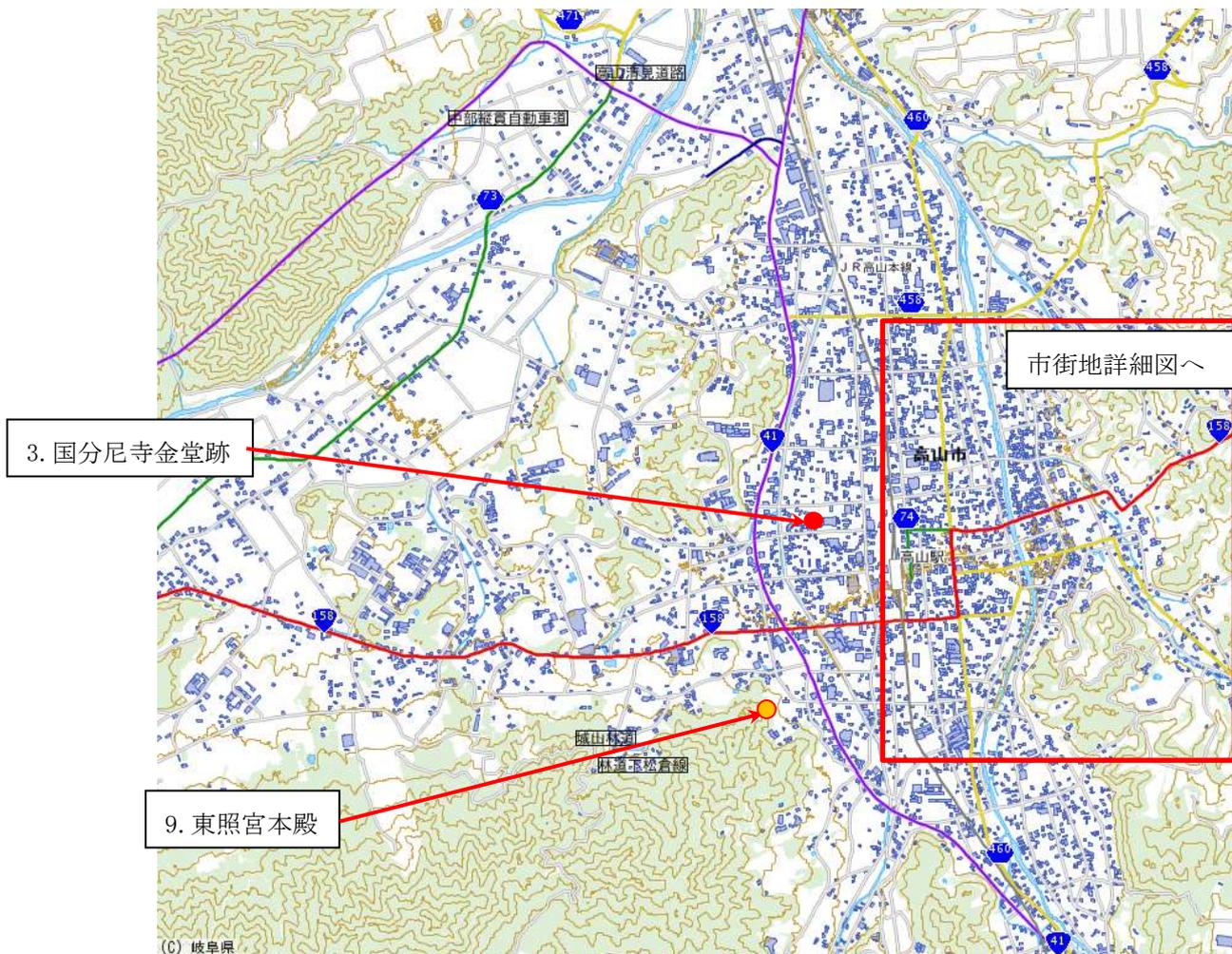
① 申請者	高山市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
ひだのたくみ ・飛騨匠の技・こころ 一木とともに、今に引き継ぐ1300年—			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
「飛騨工制度」は古代に木工技術者を都へ送ることで税に充てる全国唯一の制度で、飛騨の豊かな自然に育まれた「木を生かす」技術や感性と、実直な気質は古代から現代まで受け継がれ、高山の文化の基礎となっている。市内には中世の社寺建築群や近世・近代の大工一門の作品群、伝統工芸など、現在も様々なところで飛騨匠の技とこころに触れることができる。 これは私たちが木と共に生きてきた 1300 年の高山の歴史を体感する物語である。			
 <p data-bbox="375 1120 662 1187">国指定重要有形民俗文化財 高山祭屋台の彫刻</p>  <p data-bbox="726 1332 917 1400">国指定重要文化財 吉島家住宅の梁組</p>			

市町村の位置図 (地図等)



### 構成文化財の位置図 (地図等)

#### 〈A 市街地〉

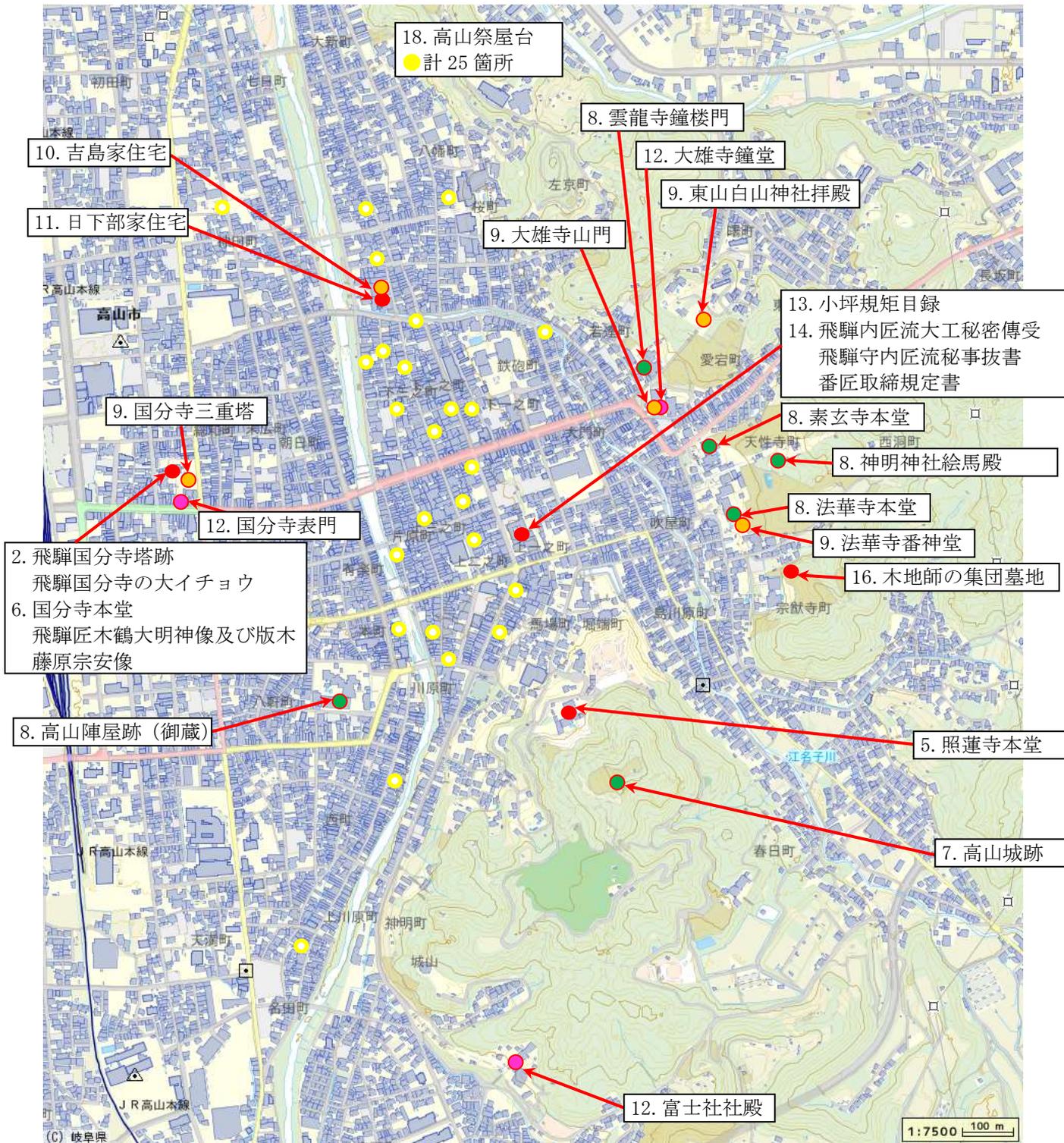


市内 (所在地を定めないもの)

15. 飛騨春慶 17. 一位一刀彫

### 構成文化財の位置図 (地図等)

#### 〈A 市街地詳細図〉



構成文化財の位置図 (地図等)

〈B 国府地域〉



## ストーリー

## 1. 飛騨工制度と匠の技・こころ

## (1) 飛騨工制度

飛騨工制度は、古代における租税制度の中で、飛騨国 1 国のみに対して特別に定められた制度である。養老 2 年 (718) に制定された養老令賦役令の斐陀国条に、庸、調といった税の代わりに年間 100 人程の匠丁 (技術者) を都へ派遣することが定められている。この匠丁が飛騨工である。

飛騨では、奈良時代以前の古代寺院が 14 箇所以上と、全国でもまれにみる密度で確認されており、飛騨工制度ができる以前から寺院を建てる高い建築技術をもっていたことがわかる。都の造営にあたり木工技術者の需要が高まり、その優れた技術力を活用するため、この制度が設けられたのである。

飛騨工の姿は古代以降、名工の代名詞として文学作品等にも描かれてきた。『万葉集』の「かにかくに物は思わじ 飛騨人の 打つ墨縄の ただ一道に」(あれこれと迷いはするまい 飛騨人が木材に引く墨縄の線のようにただ一筋に思おう) という恋歌からは、木工技術者として実直に仕事をする飛騨工の姿がみえる。その他、『源氏物語』や『今昔物語集』にも飛騨工が優れた木工技術者として描写されている。古代に都で飛騨工が建てた記録が残る建造物には、甲賀宮、平城宮、平安宮などの宮殿や、西大寺、石山寺、西隆寺などの寺院等が知られており、建築物のほか建具、家具の製作に携わっていた。高山にある飛騨国分尼寺の金堂は全国の国分寺・尼寺の中で唯一、唐招提寺等と同じく前面一間を吹き放しとし、都で得た知識が活用された例である。



国分尼寺金堂跡

飛騨工制度は鎌倉時代、古代律令制度の終焉とともに消滅するが、飛騨匠 (飛騨工制度消滅後の飛騨の木工技術者について「飛騨匠」と記載する) はその後も全国で建築活動を行っている。鎌倉時代の飛騨匠の手による建造物として、西明寺本堂や三重塔 (共に国宝・滋賀県) が現存する。また、現在も「飛騨匠の祖」として崇敬を集める飛騨権守・藤原宗安は、1311 年に長滝寺の大講堂 (明治 32 年焼失・岐阜県郡上市) の大工頭を務めている。

## (2) 匠の技とこころ

飛騨匠の技術の特徴は木の性質を見極め、それを生かす技術である。飛騨で優れた木工技術が育まれた理由の一つに、豊富な自然がある。高山市は現在でも市域の 92% を森林が占め、豊富な森林資源に恵まれているが、飛騨の山林の他と異なる特徴に、利用できる樹木の種類の多いことがあげられる。普段から多種多様な性質の樹種を使いこなすために磨かれた技術が、世界に通じるレベルまで発展したのが飛騨匠の技術である。また、山に囲まれ、冬は雪に閉ざされる高山の気候は、派手さを嫌い、寡黙で実直な気質を生んだ。この気質は古代以来現在まで受け継がれ、飛騨匠をはじめ高山の文化の基礎となっている。飛騨匠の作品は、正確な技術に基づき、木の美しさを生かし、全体が「こうと」 (= 質素) な美しさにまとめられていることに大きな特徴と魅力がある。

## 2. 飛騨匠の残した作品

高山では各時代の飛騨匠の足跡をたどることのできる多くの作品や習俗、伝説等が残されている。

## (1) 国府盆地の中世社寺建築群

古代寺院跡の多い国府盆地には、中世に遡る建造物も多く残されており、飛騨の社寺建築の流れを知ることができる。荒城神社本殿は明徳元年 (1390) 再建であり、阿多由太神社本殿は室町時代初期の建立、熊野神社本殿は室町時代後期の建立と伝わる。いずれもサワラやヒノキ、スギを多く用いて作られるが、現在では入手困難なほどの良材を使用している。安国寺経蔵は応永 15 年 (1408) 建立で、内部の輪蔵 (回転書架で、一回転すると納入された経典をすべて詠んだことになる) は、日本現存最古のものである。



安国寺経蔵内部の輪蔵

## (2) 高山城とゆかりの建築群

近世初期、天正 16 年 (1588) から慶長 8 年 (1603) まで 16 年の年月をかけて飛騨匠たちが建てた高山城は、「城郭の構え、およそ日本国中に五つともこれ無き見事なるよき城地」であったと、近世中期

の地誌にも書かれた名城であった。城は元禄 8 年 (1695) に取り壊されたが、それ以前に高山城から移築された建物が東山の寺院群等の建物として残されており、それらを巡ることで今は無き名城高山城をしのび、商家町として発達する以前、城下町として出発したころの高山を感じることができる。

神明神社絵馬殿は城内の月見平にあった月見殿、雲龍寺鐘楼門は黄雲閣を移築改修したものである。素玄寺本堂は三ノ丸の評議所を移築したもので、同じく城内から移築された法華寺本堂とともに書院造の面影を残すものである。また、高山陣屋内の御蔵も三ノ丸の米蔵を移築されたものである。

これらの建物は比較的細い部材を使うが、簡素な中に優雅さと、通常の社寺建築とは異なる力強さを感じさせる。これも飛騨匠の用材の見事さとセンスによるものである。

### (3) 近世・近代の匠達

飛騨の社寺建築の美しさの一つに、屋根の優美さがある。飛騨の山々の形に似た美しさを見せる社寺建築の屋根の曲線は、親方から代々伝わる口伝を基に、棟梁の感性によって形作られる。装飾で飾られても、全体を見るとすっきりと簡素に見えるのも、職人の技と感性によるものである。町人文化が発達した近世以降、制作者である職人に加え、発注者であり文化の主要な担い手である旦那衆、作品を評価する周囲の町人の三者の優れた感性によって、高山では多くの名建築や工芸品が生まれてきた。

近世飛騨の社寺建築は、和様を基本として柱上の組み物などに他地域とは異なる独自性が見られる。通常のヒノキやスギでなく、カツラやクリ、マツなど多彩な木材を使うことも大きな特徴であり、ここにも木材を知り尽くした飛騨匠の技を見ることができる。この時代、代々木工を職とする一門が多く現われ、飛騨匠の技の伝承がなされた。このうち、飛騨権守・藤原宗安の直系とされるのが、江戸時代中期以降 4 代にわたり「水間相模守」を名乗り、優れた彫刻を特徴とした水間一門である。高山中心



法華寺番神堂の彫刻

部には二代目による大雄寺山門や法華寺番神堂、三代目による東山白山神社拝殿、国分寺三重塔がある。また、周辺には東照宮本殿、願生寺本堂、福成寺本堂、速入寺本堂、円徳寺鐘楼等多くの作品があり、一門の作風を知ることができる。

水間相模は代々社寺建築を専らとしたが、その流れをくむ者の作品には、それ以外のものもある。村山勘四郎訓繩は彫刻に秀で、相模と共に高山祭屋台を作り、その子民次郎英繩も多くの高山祭屋台を建造改修している。西田伊三郎は木の美しさを最大限生かし、吹き抜けの梁組が特徴的な、近代民家の代表例とされる吉島家住宅を作った。



吉島家住宅の吹抜

### (4) 木を生かす伝統工芸

木の美しさを生かす技は、建築以外にも発揮された。400 年前に高山で生まれた飛騨春慶は、江戸時代初期、打ち割った木の木目を生かすために透明な漆で盆に仕上げたことに始まる漆器で、透明で木地の木目が見える漆を用いるため、素材の見立て、加工から漆塗まで全てにわたって高い技術が要求される。宗猷寺には山中を移動しながら木地椀などを作った江戸時代中期以降に築かれた木地師の集団墓地が残されている。一位一刀彫



飛騨春慶

一位一刀彫は江戸時代後期、色彩を施さず、イチイの木が持つ木の美しさを生かした彫刻として完成された。これらの伝統工芸の技術や木工技術の粋を結集して作られたのが高山祭屋台である。



一位一刀彫

古代に生まれた飛騨匠の文化は、飛騨の豊かな自然と豊富な木材に関する知識・経験をもとに、人々の実直な気質によって育まれてきた。これは木と共に生きた 1300 年の高山の歴史を体感する物語である。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地(※4)
ひだのたくみ 飛騨工制度				
1	いしばしはいじとうしんそ 石橋廃寺塔心礎 石橋廃寺跡出土品 こうじゅあん 光寿庵跡 光寿庵跡出土瓦	市有形(考古資料) 市有形(考古資料) 市史跡 県重文	飛騨では14箇寺以上と全国屈指の密度で古代寺院が見つかり、飛騨工制度が成立する背景となった。国府地区は中でも特に多く見つかる地区である。石橋廃寺や光寿庵跡はその内の一つで、礎石が見つかる。共に都で働く官人を描いた瓦が出土しており、飛騨匠の都とのつながりを示す。	
2	飛騨国分寺塔跡 飛騨国分寺の大イチョウ	国史跡 国天然記念物	古代の国分寺・国分尼寺は高山盆地に建てられた。それぞれ礎石が現存する。国分寺塔跡には七重塔が建っていたが、建設の際、柱の寸法を間違った棟梁に、娘が柱の上に桁組を置くアイデアを教えたが、その秘密を守るために娘は自ら命を絶ち、そこに墓標として植えられたのが国分寺の大イチョウだという悲しい伝説が残されている。	
3	こくぶんにじ 国分尼寺金堂跡	市史跡	飛騨国分尼寺は発掘によって礎石配置が判明したが、奈良・唐招提寺等と同様、前一間を吹き放しとしている。この構造をもつものは全国の国分寺・国分尼寺のなかでここだけである。飛騨工が都で培った知識・経験を発揮して作った一例である。	
中世社寺建築群				
4	あんこくじきやうぞう 安国寺経蔵 あわき 荒城神社本殿 あたゆた 阿多由太神社本殿 あまの 熊野神社本殿	国宝 国重文 国重文 国重文	古代寺院が多数見つかると、古代における飛騨匠の活動の一大拠点でもあった国府地域では、室町時代の社寺建築が今も多数残り、当時の匠達の技術を伝える。 安国寺経蔵は応永15年(1408)建立で、内部の八角輪蔵は現存日本最古の輪蔵(回転書架)である。輪蔵には当時、明から入手した大蔵経(現存2000帖)が納められている。	

			<p>荒城神社本殿は明徳元年(1390) 再建、阿多由太神社は室町時代初期、熊野神社は室町時代後期の建立。部材はいずれも地元のサワラ、ヒノキ、スギなど、現在では入手困難のほどの良材を用いて作られている。</p>
5	<p>しょうれんじ 照蓮寺本堂</p>	<p>国重文</p>	<p>高山地域における中世の飛騨匠の活動を知ることのできる建物。照蓮寺本堂は昭和35年に荘川地区から移築されたもので、浄土真宗本堂建築のうち国内現存最古のもの。長さ7間の長大な梁、非常に緻密な木目の板材等、飛騨の良材をふんだんに使う。旧所在地は上白川郷と呼ばれた飛騨の中でも奥まった所であり、飛騨山中における当時の建築活動の在り方を示す。</p>
6	<p>国分寺本堂 ひだのたくみもっかくだいみょうじん 飛騨匠木鶴大明神 像及び版木 ふじわらむねやす 藤原宗安像</p>	<p>国重文 市有形民俗  未指定</p>	<p>本堂は室町時代の作で、高山地域における中世の飛騨匠の活動を知ることのできる一例。本堂には木鶴大明神像や藤原宗安像が安置されている。 木鶴大明神像は飛騨匠の一人と考えられた平安時代の名工・韓志和の像(藤原宗安像ともいう)で、古くから崇敬を集めてきた。国分寺の木鶴大明神の御札は「匠講」の構成員に配られている。 藤原宗安は飛騨権守と名乗った鎌倉時代末の大工。長滝寺大講堂(焼失・郡上市・旧国宝)、高富白山神社(山県郡・重文)などを建て、現在も飛騨匠の祖として崇められている。</p>
<p>高山城とゆかりの建築群</p>			
7	<p>たかやまじょうせき 高山城跡</p>	<p>県史跡天然記念物</p>	<p>高山城は天正16年(1588)から慶長8年(1603)にかけて、飛騨匠達が16年の年月をかけて建てた平山城で、近世中期、高山陣屋の地役人によって書かれた地誌『飛騨国中案内』には「城郭の構え、およそ日本国中に五つともこれ無き見事なるよき城地」とされた名城であった。城は元禄8年(1695)に取り壊され、わずかに残る石垣等に在りし日の姿を偲ばせる。</p>

8	うんりゅうじしやうろうもん 雲竜寺鐘楼門 そげんじ 素玄寺本堂 しんめしんじや 神明神社絵馬殿 ほっけじ 法華寺本堂 じんや おんくら 高山陣屋 (御蔵)	市有形 (建造物) 市有形 (建造物) 県重文 県重文 国史跡	飛騨匠達が 16 年の年月をかけて建てた高山城は、寒冷地で瓦が割れるため屋根は板葺にするなど、飛騨の特性に合わせて作られていた。元禄 8 年 (1695) に取り壊される以前に移築された建物が現存している。 雲龍寺鐘楼門は慶長 6 年 (1601) に城内の黄雲閣を移築したもの。 素玄寺本堂は寛永 12 年 (1635)、三ノ丸にあった評議場を移築したもの。 神明神社絵馬殿は元禄 8 年 (1695)、高山城取り壊しの際に城内の月見殿を移築したもの。 法華寺本堂は 17 世紀前半、高山城内の建物を移築したもの。 いずれの建物も通常の社寺建築と異なり、屋根の小屋組は細い部材を貫で補強する構造となっており、内外の意匠も寺院らしさが見えず書院造となっている。 また、高山陣屋の御蔵も高山城取り壊しの際に三ノ丸の米蔵を移築したもの。 近世初期、飛騨匠が造った城郭建築の姿を知ることができる建築群。	
近世・近代の匠達				
9	みずまきがみ [水間相模の建築群] 国分寺三重塔 だいおうち 大雄寺山門 ひがしやまはくさん はいでん 東山白山神社拝殿 ほっけ じ ばんじんどう 法華寺番神堂 東照宮本殿	県重文 市有形 (建造物) 未指定 市有形 (建造物) 県重文	「飛騨匠の祖」として崇敬を集める飛騨権守・藤原宗安の直系とされるのが、江戸時代中期以降 4 代にわたり「水間相模守」を名乗り、優れた彫刻を特徴とした水間一門である。市内中心部には国分寺三重塔、大雄寺山門、東山白山神社拝殿、法華寺番神堂があり、その他、周辺地域には東照宮本殿、願生寺本堂、福成寺本堂、速入寺本堂、円徳寺鐘楼等、多くの作品が残されている。	
10	[水間一門の流れをくむ建築群] よしじま 吉島家住宅	国重文	吉島家住宅は四代水間相模に師事した西田伊三郎により明治 40 年 (1907) に建てられた町家建築。土間の吹抜けの梁は木の美しさが際立つように高い技術によって加工され、束と梁が整然とした構成となる。伝統に基づき、全体	

			としてこれ見よがしでない簡素な美しさを見せる。高山における町家建築の白眉。国府地域にある清峯寺観音堂も西田伊三郎の作。	
11	かわじり じすけ [川尻治助の建築群] くさかべ 日下部家住宅 たうえ 田上家住宅	国重文 市有形（建造物）	川尻治助は飛騨の大工の名門、谷口家の谷口延恭 <small>のぶやす</small> に師事した。彫刻の名手でもあり、一刀彫 <small>いっとうぼり</small> の名品も残している。明治 12 年（1879）に建てられた日下部家住宅では、これまで社寺建築に使われていた軒裏の「セガイ」を民家に取り入れるなど、高山の近代民家建築を切り開いた。吹き抜けの梁組はスケール感を感じさせ、隣合う吉島家との対照性を感じさせる。 田上家住宅は明治 15 年（1882）、街道沿いに建てられた農家建築。町家建築である日下部家住宅と共通の意匠を取り入れ、内部も贅を凝らした造りとなる。 とともに近世までの規制から解放され、銘木をふんだんに使い、意匠も凝らし、棟梁 <small>とうりょう</small> が技術とセンスを最大限発揮した近代民家建築の代表作。	
12	[松田一門の建築群] だいおう じしやうどう 大雄寺鐘堂 おもてもん 国分寺表門 ふじしゃ 富士社社殿	県重文 市有形（建造物） 市指定（建造物）	松田家は江戸時代前期より活躍する大工の家系で、なかでも太右衛門は多くの作品を残し、また優れた弟子も多く育てている。 大雄寺鐘堂は元禄 2 年（1689）、太右衛門の父・又兵衛 <small>またべゑ</small> の作。 国分寺表門は元文 4 年（1739）、太右衛門の手による。また、富士社社殿は寛延元年（1748）に太右衛門により建てられた、現存数少ない神社建築。これらの他、正宗寺本堂 <small>りやうとくじ</small> 、了徳寺本堂 <small>りやうとくじ</small> 、東等寺本堂 <small>とうとうじ</small> 、随縁寺本堂 <small>ずいえんじ</small> 、円徳寺本堂 <small>えんとくじ</small> 、歓喜寺本堂等、多くの作品を残している。	
13	こつぽかね 小坪規矩目録	未指定	正徳 2 年、名工・松田太右衛門 <small>たゝきよもん</small> によって書き写された大工の雛形本。技術伝承の様相を伝える。	
14	たくみ 飛騨内匠流大工秘密傳受 ひだのかみ 飛騨守内匠流秘事抜書 ばんしやう 番匠取締規定書	未指定	「飛騨内匠流」の大工の作法や屋根の曲線の出し方等を記したもの。大工秘密傳受は正徳 3 年、秘事抜書は宝暦 7	

			年の日付がある。番匠取締規定書は明治3年に改正された、大工仕事をする上での心掛け等が記されたもの。宝暦年中に決められ、文化・文久年間にも一部改正されている。近世飛騨の大工の技術の実態とその伝承の様相を伝える。
木を生かす伝統工芸			
15	飛騨 <sup>しゅんけい</sup> 春慶	記録作成等の措置を講ずべき無形文化財 伝統的工芸品	400年前、大工が持参したサワラの打ち割った木目の美しさを生かすため、金森宗和（飛騨国主金森可重の長男で後に宗和流茶道の開祖となった）が透明な漆で盆に仕上げることを命じたことに始まる漆器で、透明で木地の木目が見える漆を用いるため、素材の見立て、加工から漆塗まで全てにわたって高い技術が要求される。高山を代表する伝統工芸の一つである。
16	木地師 <sup>きじし</sup> の集団墓地	市有形民俗	木地師は良質な木材を求めて山々を渡り歩き、椀の木地等を作成する職業集団である。山林資源に恵まれた飛騨には木地師の足跡が残されている。宗猷寺には宝永8年（1711）以降に築かれた93基の木地師の墓が残されている。
17	いちい <sup>いちい</sup> つとうぼり 一位一刀彫	未指定 伝統的工芸品	江戸時代末、イチイの木を材料とし、色彩を施さず、イチイの木が持つ木の美しさを生かした彫刻として完成された。一刀彫師には大工の一門の流れをくむものも多く、工芸にとどまらず、建築装飾を支えた。
18	たかやま <sup>たかやま</sup> まつり 高山祭屋台	国有形民俗 県有形民俗	高山祭屋台は大工、彫刻、漆をはじめ飾金具、鍛冶など、高山の職人の技術を総動員して作られた傑作である。江戸型の山車 <sup>だまし</sup> を祖形とし、上方の装飾 <sup>かみがた</sup> やからくり人形を取り入れて成立したもので、からくり人形を横から操る仕組み、屋台の方向転換に用いる戻し車 <sup>もどぐるま</sup> など、高山独自の形に進化した。背が高く下段が小さいため一見不安定に見えるが、全体を見ると優美な姿を見せるアンバランスの美がある。また、各部は多くの飾金具 <sup>かざりかなぐ</sup> や彫刻で飾られるが、全体でみると落ち着いた美しさを

			<p>もつ。このようなバランスの良さと奥ゆかしさこそが、高山の伝統的な感性であり、町人の美意識とそれに応える職人の技術によって作り出されるのである。現在も市の技術認定を受けた高山の職人たちによって維持修理が行われている。</p>	
19	有道杓子 うとうしゃくし	市無形民俗	<p>江戸時代以来、久々野地域の有道地区に伝わるしゃくし。材質のホオノキは材質が比較的柔らかく、素朴な色合いを持つ白木で、乾燥しても形が変わらない。これを一本の木から削り出して作製するため、丈夫で実用性も高い。大工のみならず、高山に住む皆が木に対する知識と経験を有することを示す例。</p>	

## 構成文化財の写真一覧

1-1.石橋廃寺塔心礎



1-2.光寿庵跡出土瓦



2-1.飛騨国分寺塔跡



2-2.飛騨国分寺の大イチョウ



3.国分尼寺金堂跡



4-1.安国寺経蔵



4-2.荒城神社本殿



5.照蓮寺本堂



6-1.国分寺本堂



6-2.飛騨匠木鶴大明神像



7.高山城跡



8-1.雲龍寺鐘楼門



8-2.法華寺本堂



9-1.国分寺三重塔



9-2.法華寺番神堂



10.吉島家住宅



11-1.日下部家住宅



11-2.田上家住宅



12-1.大雄寺鐘堂



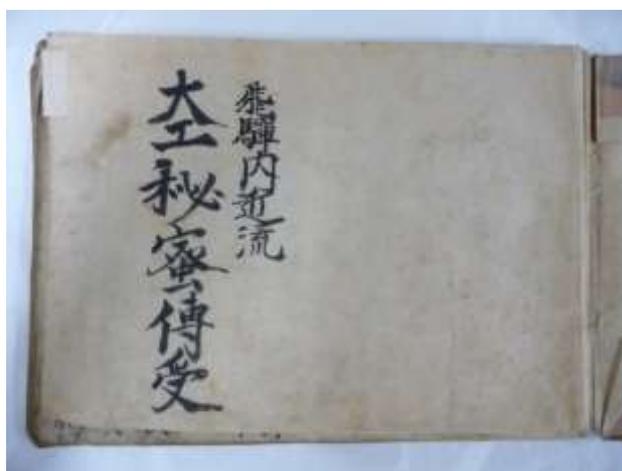
12-2.富士社社殿



13.小坪規矩目録



14. 飛騨内匠流大工秘密傳受



15.飛騨春慶



16.木地師の集団墓地



17.一位一刀彫



18.高山祭屋台



19.有道杓子



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
29	飛騨匠の技・こころ ―木とともに、今に引き継ぐ1300年―

## (1) 将来像 (ビジョン)

- ・飛騨匠の技とこころが飛騨高山の文化の基底をなしているというストーリーを市民が共有し、誇りを持って語ることができるまち
- ・飛騨匠の技とこころが飛騨高山の魅力として広く理解され、多くの来訪者にとって飛騨匠が残した作品や伝統技術等に触れることができるまち
- ・伝統的な建築や工芸のみならず、モノ作りの聖地として飛騨高山が評価され、様々な産業に飛騨高山ブランドが浸透しているまち

## (2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：飛騨高山まちの体験交流館の入館者数（人）

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	168,238	96,034	71,457 (1月末)	100,000	110,000	120,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	飛騨匠に関わるものづくりを体験することができる施設である飛騨高山まちの体験交流館の入館者数					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-B：日本遺産コンテンツを体験した人数（人）

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	102	19	29	50	55	60

目標値の設定の考え方 及び把握方法	飛騨高山まちの体験交流館において、日本遺産コンテンツ（一位 一刀彫等）のストーリーに触れ、体験した人数
----------------------	--

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：地域の文化に誇りを感じる住民の割合（％）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	75.7	74.3	72.8	76.0	76.0	76.0
目標値の設定の考え方 及び把握方法	「文化財や伝統文化が保存・継承され、郷土の歴史文化に誇りを持 っている」と感じている市民の割合（市民アンケート）					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産ラリー参加者数（人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	0	0	963	2,000	3,000	4,000
目標値の設定の考え方 及び把握方法	日本遺産スタンプラリー、フォトラリー、サイクルラリーに参加 した人の合計					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の保存・活用のため充当されたふるさと納税額（千円）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	49,130	34,249	80,354	60,000	65,000	70,000
目標値の設定の考え方 及び把握方法	日本遺産の保存・活用のため関連事業に充当されたふるさと納税 額					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：日本遺産関連でメイドバイ飛騨高山認証がされた件数（件）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	9	10	11	13	15	17

目標値の設定の考え方及び把握方法	「メイドバイ飛騨高山」として認証を受けた日本遺産関連産品の数
------------------	--------------------------------

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－B：観光客入込み数（千人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	4,733	2,301	1,948	3,000	3,300	3,600
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	高山市内に観光で訪れた人の数（観光統計による推計値）					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－C：外国人観光客宿泊者数（千人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	612	109	3	10	15	20
目標値の設定の考え方及び把握方法	高山市内に観光で訪れた外国国籍を持つ人の宿泊者数（観光統計による推計値）					

(3) 地域活性化のための取組の概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛騨匠の技とところが飛騨高山の文化の基底をなしているというストーリーを市民が共有し、誇りを持って語ることができるよう、日本遺産に関連する講座の開催やメディアを通じた広報、教育機関との連携などに引き続き取り組む。</li> <li>・飛騨匠の技とところが飛騨高山の魅力として広く理解され、多くの来訪者にとって飛騨匠が残した作品や伝統技術等に触れることができるよう、積極的なプロモーションを展開するとともに、受け入れ体制の整備や周遊ルートの設定を行い、ビジネスとして自立化できるよう環境整備に取り組む。</li> <li>・令和4年度に計画している日本遺産サイクルラリーでは、日本遺産構成文化財以外の文化財を取り込みつつ、自然体験やスポーツといったジャンルを超えた新たな観光コンテンツを整備することで、主に外国人のニーズに応えたツアーの商品化を目指す。</li> <li>・令和4年度から飛騨高山まちの体験交流館の指定管理者となる（株）ジェック経営コンサルタントと連携して一位一刀彫や有道杓子等の日本遺産構成文化財の実演・体験事業を</li> </ul>	

引き続き行うとともに、新たな日本遺産構成文化財の体験事業の開発に取り組む。また、飛騨匠の技体験を単なるものづくり体験としないため、伝統技法に触れられる高付加価値「飛騨匠体験」の商品化を目指す。

・伝統的な建築や工芸のみならず、モノ作りの聖地として飛騨高山が評価され、様々な産業に飛騨高山ブランドが浸透するよう、ブランド力強化の取り組みを進め、製品の積極的な認証や海外も含めた情報発信を行うとともに、日本文化への理解の増進や、訪日ニーズの向上に取り組む。

#### (4) 実施体制

○下記の組織を中心に連携を図り、飛騨の匠を通じた地域の活性化に取り組む。

・ 高山市飛騨匠日本遺産推進協議会

協同組合飛騨木工連合会（木工産業）

（一社）飛騨・高山観光コンベンション協会（観光・DMO）

高山商工会議所（経済） 飛騨春慶連合協同組合（伝統工芸）

飛騨一位一刀彫協同組合（伝統工芸） 高山市景観町並保存連合会（景観・町並）

飛騨高山旅館ホテル協同組合（宿泊） 飛騨地域地場産業振興センター（地場産業）

国府史学会（ストーリー・歴史研究） こくふ観光協会（観光）

国府町まちづくり協議会（地域づくり） 高山市内小中学校（教育）

高山市役所関係部署

・ 高山市日本遺産戦略検討部会（調整中）

上記協議会より実務担当者7名程度

高山市役所関係部署

#### [人材育成・確保の方針]

・ 伝統技術の継承に関わる職人の育成を支援するほか、教育現場との連携や移住者支援の取り組みなどを通じて担い手の確保に努める。

・ 情報発信を通じて海外を含めた飛騨高山ファンを確保し、プロモーションに関わる人材の裾野を広げる。

#### (5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

短期的には日本遺産に関連する観光ルートの整備や商品の開発を進め、中・長期的には商業ベースに乗せることができる品目を拡大させる。その上で飛騨匠ブランドを通じた自発的かつ持続可能な事業を集約し、協議会の中に位置付けしてゆく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財の認知度の向上や、看板整備等による受け入れ体制の充実を通じて、文化財所有者や地域住民にその価値を再認識していただく。また、ウォークラリーやサイクルラリーの実施などを通じて、文化財に親しみながら学ぶことができる環境の整備、周辺の観光コンテンツと連携した回遊ルートの設定等を通じ、交流人口の拡大を図り、好循環につなげてゆく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	高山市日本遺産戦略検討部会設置
概要	高山市飛騨匠日本遺産推進協議会の下部組織として、構成団体から実務担当者7名程度が参加する部会を設置し、年4回の会議（マーケティング調査、各種データ分析、戦略検討）を実施し、成果のフィードバックを図る。

	取組名	取組内容	実施主体
①	戦略検討部会によるマーケティング調査	年4回の会議を実施し、各団体等が把握している入込客や施設入場者数、アプリのアクセス件数等により状況把握を行う。	協議会構成団体 高山市
②	〃 データ分析	報告データに基づきデータ分析を実施し、団体毎にニーズ調査等を行う。	協議会構成団体 高山市
③	〃 戦略検討	ニーズ調査等のデータに基づき今後の戦略を検討し、協議会への提案資料を作成する。	協議会構成団体 高山市
④	飛騨の匠学会の体制整備	・飛騨の匠学会の学芸員の増員（1名） ・戦略検討部会へのアドバイス	飛騨の匠学会

年	事業評価指標	実績値・目標値
2019年		—
2020年		—
2021年		—
2022年	戦略検討部会の開催	4回
2023年	同	4回

2024年	同	4回	
事業費	2022年：0千円	2023年：0千円	2024年：0千円
継続に向けた事業設計	高山市文化財課が同ブランド戦略課と連携して事務局機能を担う。		

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号2-A)			
事業名	高山市が策定する行政計画への位置付けと進捗管理		
概要	高山市第八次総合計画や第3期教育振興基本計画、高山市産業振興計画に位置付けるとともに、総合計画実施計画のローリングによる進捗管理を行う。文化財保存活用地域計画の策定に取り組む。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	実施計画のローリング	総合計画に定めた目標に基づき定めた実施計画が予定どおり進捗しているか、定期的なローリングによる管理を行う。	高山市文化財課
②	庁内の関係課による調整と事業の推進	ローリングの結果をふまえ事業進捗状況の確認を行い、課題の把握と解決に向けた対応を検討する。	高山市関係課
③	文化財保存活用地域計画の策定	文化財の保存と活用に関する総合的な計画を策定し、日本遺産に関する戦略的な事業計画を位置付ける。	高山市文化財課
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	高山市が策定する行政計画への位置づけ		0件
2020年			3件
2021年			4件
2022年	文化財保存活用地域計画の策定のための実態調査 実施計画のローリング		2件
2023年	文化財保存活用地域計画策定協議会設置 実施計画のローリング		2件
2024年	文化財保存活用地域計画の策定 実施計画のローリング同		2件
事業費	2022年：2,000千円	2023年：未定	2024年：未定

継続に向けた 事業設計	文化財保存団体等との意見交換、未指定も含めた文化財の現状調査 実施計画のローリングによる進捗状況の管理
----------------	--

(7) - 3 人材育成			
(事業番号 3-A)			
事業名	日本遺産ガイド養成講座		
概要	日本遺産関連文化財を巡り観光客の案内に携わるガイドを中心に、分かり易く正確な説明が可能となるよう養成講座を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	語り部養成講座	市文化財課学芸員の説明により、東山寺院群などの構成文化財の歴史や特徴を学ぶ。 うち2回については、飛騨地域・地域通訳案内士を対象として実施し、正しく高山の文化を語るができる人材の育成に取り組む。	高山市 文化財課 海外戦略課
②	まちの博物館ボランティアガイドの活用	研修を受けたガイドの活動機会を提供し、その実績を把握するとともに、定期的な意見交換等を通じて講座の内容に反映し、更なるスキルアップを図る。	高山市 文化財課 海外戦略課
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	講座実施回数		0回
2020年			0回
2021年			4回
2022年	講座実施回数		4回
2023年	同		4回
2024年	同		4回
事業費	2022年：0円	2023年：0円	2024年：0円
継続に向けた 事業設計	実際にガイドとして携わる方に広く参加を呼び掛ける。 広汎な文化財を対象としつつ、個々の文化財に関わるストーリーを詳細に解説する。 庁内関係課（観光課・海外戦略課）と連携し、ガイドのスキルアップを図る。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-B)			
事業名	飛騨高山の名匠認定制度		
概要	優れた技術と豊富な経験を有する現役の技能者を飛騨高山の名匠として認定し、市内外に公表することにより、産業の振興と後継者の育成を促進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	飛騨高山の名匠認定	現役の技能者を認定、顕彰するとともに、認定者の紹介パネルや作品の展示を行うことで、市民や市外からの来訪者などに広く周知する。	高山市 商工振興課 農務課
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	認定者数		13人
2020年			8人
2021年			11人
2022年	認定者数		10人
2023年	同		10人
2024年	同		10人
事業費	2022年：560千円 2023年：560千円 2024年：560千円		
継続に向けた事業設計	対象業種団体等に対して制度説明を行い、趣旨を理解していただくとともに、商工会議所や商工会を通じて関係団体等に周知することで推薦者数の増加を図る。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-C)			
事業名	伝統的工芸品産業後継者育成事業		
概要	伝統的工芸品産業等に係る技術の継承と振興を図るため、後継者育成事業所及び研修者に対して支援を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	伝統的工芸品産業後継者育成事業	後継者を育成しようとする伝統的工芸品産業等の事業所および伝統的工芸品産業等の技術を修得しようとする研修者に対して支援を行う。	高山市 商工振興課
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	新規研修者数		3人
2020年			7人
2021年			5人

2022年	新規研修者数	3人
2023年	同	3人
2024年	同	3人
事業費	2022年：13,260千円 2023年：13,260千円 2024年：13,260千円	
継続に向けた事業設計	対象者等に対して積極的に制度の周知を行う。	

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-D)			
事業名	伝統的大工技術等承継事業		
概要	地域の伝統的な技法の活用の促進、伝統的な技法の継承と地場産業の振興等を推進するため、地域の伝統的な技法による建造物の修景等に対して支援を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	伝統的大工技術等承継事業	地域の伝統的な技法の活用の促進、伝統的な技法の継承と地場産業の振興等を推進するため、地域の伝統的な技法による建造物の修景等に対して支援を行う。	高山市 建築住宅課
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			—
2020年	新・増改築件数		22件
2021年			23件
2022年	新・増改築件数		20件
2023年	同		20件
2024年	同		20件
事業費	2022年：10,000千円 2023年：10,000千円 2024年：10,000千円		
継続に向けた事業設計	対象者等に対して積極的に制度の周知を行う。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	日本遺産周遊コースの設定		
概要	日本遺産に関連した周遊モデルコースの設定による観光客の受け入れ環境整備		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財めぐりウォークラリーコースの設定	日本遺産に関連した文化財めぐりウォークラリーコースを新たに設定し、広く市民や観光客に利用を呼び掛ける。	高山市 文化財課 観光コンベンション協会
②	モデルコースの提示	日本遺産をより深く感じ取ることができるようモデルコースを提示し、各種メディアにより広く周知を図ることで、広域観光・滞在周遊型観光への移行を目指す。	高山市 文化財課 観光コンベンション協会
③	日本遺産サイクルラリーコースの設定	「日本遺産サイクルラリー」コースを設定し、地域住民への浸透を図りつつ、新たな体験メニューとして商品化を目指した環境を整備する。	高山市 文化財課 観光コンベンション協会
④	現代の飛騨匠とそこに触れる旅(仮)の設定	公共交通機関や徒歩により市内の家具ショールームやカフェ、ショップを巡るモデルルートを設定し、各種メディアにより広く周知を図ることで、地域経済への波及を目指す。	高山市関係課 観光コンベンション協会
⑤	市内事業者ツアー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CJETT : 飛騨春慶塗体験</li> <li>・ 日下部民藝館 : オンラインヴァーチャルガイドツアー</li> <li>・ ハッピープラス : 座禅+東山遊歩道ツアー、古い町並、東山ウォーキングツアー</li> <li>・ Takayama360 : 日下部民藝館、古い町並、高山陣屋、東山遊歩道</li> </ul>	市内事業者
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	文化財めぐりウォークラリーコース(越中街道コース)の設定		0件
2020年			0件
2021年			1件
2022年	日本遺産サイクルラリーコース(国府コース)の設定		2件
2023年	文化財めぐりウォークラリーコース(久々野コー		2件

	ス) の設定、日本遺産モデルコースの提示	
2024 年	「現代の飛騨匠の技とそのところにふれる旅(仮)」の設定、日本遺産モデルコースの提示	2 件
事業費	2022 年 : 84 千円 2023 年 : 500 千円 2024 年 : 500 千円	
継続に向けた事業設計	地域住民の意見を参考に、安全面に配慮した効果的なコース設定を検討する。 関連する公共交通事業者等と協議しコース設定を行う。	

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	飛騨高山まちの体験交流館の管理運営		
概要	観光客の交流、伝統文化や地場産業の振興を図ることを目的とした施設において、飛騨匠の技やところを体験できる取り組みをすすめる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	実演・体験事業	飛騨の伝統的なモノづくりの技を気軽に体験できるメニューを揃え、多くの観光客等に提供する(市体験プログラム促進事業連携)。	民間事業者 観光コンベンション協会
②	交流広場でのイベント開催事業	地域の周遊性の向上を目的としたイベントを積極的に開催する。 例：大工(カンナ削り)体験等	民間事業者
③	有道杓子づくり体験	日本遺産構成文化財である有道杓子の製作体験メニューを一人1,500円で提供する。	民間事業者
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年			16,769 人
2020 年	体験利用者数(人)		4,512 人
2021 年			未確定
2022 年	体験利用者数(人)		20,000 人
2023 年	体験利用者数(人)		20,000 人
2024 年	体験利用者数(人)		20,000 人
事業費	2022 年 : 27,920 千円 2023 年 : 27,920 千円 2024 年 : 27,920 千円		
継続に向けた事業設計	飛騨の伝統技術を主なコンテンツとする事業者を積極的に活用した上で、自立した事業運営をサポートする。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	日本遺産普及啓発事業
概要	市内の小中学生への周知を図るとともに、市民や国内外からの観光客に向けた普及啓発に取り組む。

	取組名	取組内容	実施主体
①	子ども向け日本遺産パンフレットの配布	市内の小学4年生(一部3年生)全員に子供向けの分かり易い内容のパンフレットを配布するとともに、講話等を行うことで匠の国としての誇りを醸成する。	高山市文化財課
②	NOBODY KNOWS プロジェクトの実施	日本遺産と伝統芸能のコラボを企画し、一流の伝統文化に身近に触れることで、子供たちの関心を高め、将来の担い手を確保し、伝統の継承に繋げる。	高山市文化財課
③	日本遺産フォーラムへの参加	日本遺産フォーラムに参加し、プロモーション活動を行うことで広く国内への周知を図る。	高山市文化財課・観光課
④	海外における飛騨の匠の歴史、伝統、文化、製品の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジャパンハウスロンドン等への出展等</li> <li>・ フランス コルマール日本雑貨店での飛騨フェアの実施</li> <li>・ フランス コルマール SITV 国際旅行博における情報発信</li> <li>・ 映像作成 (The birth of RyomenSukuna、Hida Takayama Japan Tourism)</li> </ul>	高山市ブランド戦略課・海外戦略課
⑤	企画展・特別展の開催や出展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 袖垣治彦 飛騨版画展 R4.7~R4.8.20</li> <li>・ ジャパンハウス ロンドン「飛騨の匠展」への協力 R4.9~</li> <li>・ 富山美術館の椅子コレクションをミュージアム飛騨にて展示</li> <li>・ 飛騨の匠展示会の開催</li> </ul>	飛騨の匠学会
⑥	出前講座・アーカイブ事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飛騨の匠の出前講座の開催(随時)</li> <li>・ 飛騨の匠のアーカイブ事業の実施</li> </ul>	飛騨の匠学会

年	事業評価指標	実績値・目標値
2019年	関連イベントの実施	2回
2020年		4回
2021年		3回
2022年	関連イベントの実施	3回
2023年	関連イベントの実施	3回
2024年	関連イベントの実施	3回

事業費	2022年：200千円 2023年：200千円 2024年：200千円
継続に向けた事業設計	各取り組みを戦略的かつ効果的に実施することで相乗効果を発揮させる。

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号7-A)			
事業名	多様なメディアを通じた情報発信		
概要	旅行雑誌、ウェブサイト、SNSなど多様な媒体を通じて、戦略的な情報発信を行う		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ホームページの管理運営	日本遺産構成文化財「高山祭屋台」などの修理に携わる職人を紹介する情報を掲載したHPを管理し、定期的に更新する。	高山市観光課
②	公式SNSの管理運営	定期的な情報発信や親しみやすいコンテンツの整備により、登録者を拡大させ、来訪者の増加につなげる。	高山市広報広聴課
③	日本遺産サミット等への参加	情報発信に努めるとともに、旅行業者等とのネットワークの構築を図り、販路拡大や認知度の向上を図る。	高山市関係課
④	旅行雑誌等での掲載拡大	雑誌やテレビ、ネット媒体などで取り上げられるよう積極的な情報提供や関係者とのコネクションの構築を図る。 ・セントレア事業 中国向けウェビナーでのライブ配信 ・北陸・飛騨・信州 3つ星街道プロモーションでの動画制作・配信	高山市関係課
⑤	都市部での情報発信	中部地方インフォメーションプラザ in 京王新宿、都市圏百貨店等での物産展及び都市部での観光キャンペーン等において情報発信を図る。	観光課
⑥	体験メニューの情報発信	飛騨高山まちの体験交流館における体験メニューの情報発信と、Web上で体験の申込・受付を完結させる。	民間事業者
⑦	飛騨の匠学会の情報発信等	・飛騨匠HPの内容のアップデート ・全国の飛騨の匠関連情報の収集・取りまとめ	飛騨の匠学会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	民間の雑誌やテレビ、ウェブサイト等の掲載件数		19件
2020年			7件
2021年			17件

2022年	民間の雑誌やテレビ、ウェブサイト等の掲載件数	15件
2023年	民間の雑誌やテレビ、ウェブサイト等の掲載件数	15件
2024年	民間の雑誌やテレビ、ウェブサイト等の掲載件数	15件
事業費	2022年：594千円 2023年：594千円 2024年：594千円	
継続に向けた事業設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な広報媒体における「日本遺産」周知対応の徹底</li> <li>・ 日本遺産ロゴの各種イベント等での活用</li> <li>・ 担当者のSNS研修の参加</li> </ul>	